提出日 2024年 8月 7日

長期戦略テーマの責任者 (統轄部署) 教務機構長 林 隆敏 (教務機構)

## 1. 長期戦略のテーマ

超	超長期ビジョン 長期戦略(テーマ名)		統轄部署	
1	学士課程教育	(13)	学修支援の充実	教務機構

#### 内容

大学教育において、学生が学修成果を修得するためには、正課における授業に加えて、授業外での多角的な学修支援が重要となる。このため、学生の多様なニーズに対して個別に対応した学修支援の充実を図る。

#### (ライティングセンター)

文章表現力は、論理的思考力など汎用的能力の基礎となるもので、初年次または低年次に徹底して訓練することでその後の大学教育の成果が大きく左右される。これは、学部における基礎演習などの正課科目において身に付けるものであるが、補完的な役割として学生が必要に応じて対面でスタッフから指導や助言、添削等を受けられる「ライティングセンター」を設置する。一般的にライティングセンターは、①レポートを含めた一般的な文章作成②留学生対象の日本語論文作成③日本語での論文作成④英語での論文作成など種々の要望に応じた支援機能を有するが、本大学は最もニーズが高いと想定される①と②に重点を置いてスタートする。

スタッフとしては、本大学の学生や大学院生を訓練して活用し、将来的には専門職の職員の雇用についても検討する。

また、センターの開設にあたっては、学部の基礎演習などの正課科目と連携し、必要に応じて 担当教員から学生にセンターの利用を促す仕組みを構築することで相乗的な効果をめざす。 (学修相談)

学修相談を行う仕組みとして、本大学では演習担当者が各演習を通して学生支援を行うことを基本としつつ、各教員がオフィスアワーを設定して広く学生の個別相談に応じたり、学部にアカデミックアドバイザー(専任教員)を置き、成績不振学生に対する個別指導を行っている。一般的に学修相談の内容は、①履修登録時のアドバイス、②学問領域についての相談、③生活指導等の三つに分かれるが、①、③については職員が分担可能の領域でもあるため、教職協働による学修支援の新たな仕組みへと発展させ、教員の負担を軽減させる。また、支援を補強するツールとして、学生の多様な情報・データを蓄積した「e-学生台帳」を構築し、活用することをめざす。(TA・LA・SAの活用)

TA・LA・SA を一層有効に活用するため、現行ある諸制度の整理、見直しを図り、授業での教育支援(教員への支援を含む)、授業外での学修支援を強化する仕組みを再構築する。

#### 【フェーズⅡに向けた課題】

- ・多様な授業形態に合わせた対面・Web による学修支援体制の検討(専門人材の配置含む)
- ・ライティング科目におけるオンデマンド授業化の推進
- ・学生カルテの活用方策の検討(学内各部署が連携し、本人の多様なデータを活かして学生一人 一人をサポートすること)
- 学修が遅滞気味の学生への学修支援方策の検討

### 【フェーズⅡの Total Review】

- ・ライティングセンターにおける対面指導の高度化や、学部・大学院向け受講者を一定増加させるなど、コロナ禍を転機として取り組んでいる。
- ・AA 制度の成果分析期間を短くすることで、対象学生の動向把握が進む。
- ・コロナ禍で活躍できなかった TA, LA, SA のさらなる活用を促進すると共に、義務化された研修内容を定める必要がある。

#### 【フェーズⅢに向けた課題】

- ・多くの学修支援の中で、ライティングセンターによる対面指導や授業実施、TA, LA 等の更なる 活用を進める必要がある。コロナ禍を転機として、オンライン・オンデマンドを活用するなど 支援拡大をめざす。
- ・全学生に一定のライティングスキル修得を担保するしくみの検討
- ・AA 制度については、安定した仕組みになっていることから、ルーティン化する。

提出日 2024年 8月 7日

長期戦略テーマの責任者 (統轄部署) (統轄部署) 数務機構長 (教務機構)

### 指標1

10 lw .	は1末 「							
指標	内容							
指標名	大学教育への満足度:学習支援や個別の学習指導							
定義・算式	【2021 まで】共通学生調査(IR 上級生調査)の項目「大学教育への満足度:学習支援や個別の学習指導」の「とても満足」と「満足」の合計 【2022 以降】「在学生調査(卒業時)」問3の選択肢「所属学部での学習支援・相談」における「4. どちらかといえば満足」「5. 満足」の合計と「リポートや論文のライティング支援」における「4. どちらかといえば満足」「5. 満足」の合計の平均							
現状値 (指標設定時)	30.1%(2016年度)、31.0%(2017年度)							
	フェーズ	1 終了時 (2021 年度)	フェーズ	〔2終了時(2024年度)	フェーズ3終了時(2027年度)			
目標値		36%以上		45%以上	50%以上			
	2019 年度	33. 2%	2022 年度	41%	2025 年度			
実績値	2020 年度	22. 2%	2023 年度	43. 6%	2026 年度	_		
	2021 年度	23. 2%	2024 年度		2027 年度			

## 2. 実施計画ロードマップ

	実施計画	担当部署	学部・研究 科での 取組み有/無	2019	2020	2021	2022	2023	2024	2025	2026	2027
1	ライティングセンターに よる文章力向上	教務機構、	必要なし			3年間		2호	間	(3	4年間	$\bigcap$
2	教職協働によるアカデミックアドバイスの仕組み 確立	教務機構	必要⇒【必須型】(全学部または全研究科での取組みが必須)		3	年間		2호				
3	TA·LA·SA の活用促進	教務機構	必要→【必須型】(全学部または全研究科での取組みが必須)		3	年間		<u>2</u> 4	<b>工</b> 間	3	3年間	
4			必要の有無 を選択くだ さい。									
⑤			必要の有無 を選択くだ さい。									
	備考欄】											

#### ※想定される実施計画の例示

- ①. ライティングセンターの設置
- ②. 教職協働によるアカデミックアドバイスの仕組み確立

- ③. e-学生台帳の構築・活用
- ④. TA・LA・SA の活用促進

(5)

※ロードマップ策定作業用記号 3年間 3年間

3. 本長期戦略テーマの各実施計画に関する費用、人員の合計(2019年度~2027年度)

提出日 2024年 8月 7日

長期戦略テーマの責任者 (統轄部署) (統轄部署) 数務機構 (教務機構)

### ◆フェーズ I:2019 年度~2021 年度

費用計画・人員計画	2019 年度	2020 年度	2021 年度		
(単位:万円) 経費合計					
人件費合計					
総計(経費+人件費)					

### ◆フェーズⅡ:2022 年度~2024 年度

· · · · · · · · · · · · · · · · · · ·						
費用計画・人員計画 (単位:万円)	2022 年度	2023 年度	2024 年度			
経費合計	非公開					
人件費合計						
総計(経費+人件費)						

### ◆フェーズⅢ:2025年度~2027年度

	. 12-3				
費用計画・人員計画 (単位:万円)	2025 年度	2026 年度	2027 年度		
経費合計		II			
人件費合計	非公開				
総計(経費+人件費)					

## 4. 進捗状況等記入欄

	進捗状況および今後の課題、方向性
2019 年度	ライティングセンターでは 2020 年度春学期より学士課程学生向け科目を開講し、新型コロナウィルス感染症の影響を受けながらも順調なスタートを切ることができている。TA については、2021 年度以降の定期試験期間の短縮による試験監督者の補填策として学部間での協力体制の検討、また、LA については、オンライン授業でも活用できる方法を模索中である。
2020 年度	昨年度に引き続き、新型コロナウィルス感染症の影響が大きかった。アカデミックアドバイザー(以下、AA)による面談が実施できなかった学部があった一方で、AAによる面談後、修得単位数に改善が見られた学部もあった。これら成果の上がった学部の対象者抽出基準や面談内容を分析することで、AAを通じた全学的な学習支援をより効果的かつ効率的なものに変えていくことが今後の課題である。また、TAやLAも当初対面で実施予定であった科目がオンライン授業へ移行した影響を受け、予定どおりの業務を行えなかったケースが散見された。こうした背景もあり、LAを対象としたアンケートからは、LA制度のより良い運用を目指すための意見が読み取れた。これらの意見を基に、LA制度運用のためのガイドラインを作成する等の検討を進めていく。
2021 年度	2021 年度中に行われたアカデミックアドバイザー(以下、AA)による面談は、全学部実施できている。2021 年度中に、2020 年度の AA 対象者について分析を行ったものの、面談成立率の高い学部は成績改善率も高いとの結果は得られなかった。今後、学生の学修意欲の改善のため、継続して制度運用・データ収集を実施し、有益なアプローチ方法や結果を分析していく必要がある。前年度より検討がすすめられていた LA 制度運用のためのガイドラインについて、2021 年度に作成し、教務委員会で報告した。アンケートでも課題にあがっていたオンライン授業での LA 業務について、よりスムーズに授業サポートができるように、研修会では業務経験者の工夫を共有した。ライティングセンターでは、2021 年 4 月に大学図書館地下1階にライティングセンターをオープンし、対面指導をスタートした。今後は、他キャンパス所属学生への支援方法についても検討を進める。科目運営について、履修者数、受講生の満足度ともに前年度を上回る結果となった。今後、オンデマンドと対面実施でのハイブリッド形態での実施も視野に入れつつ、授業内容の検討、向上に取り組む。

提出日 2024年 8月 7日

長期戦略テーマの責任者 (統轄部署) 教務機構長 林 隆敏 (教務機構)

2022 年度	2022 年度中に行われたアカデミックアドバイザー(以下、AA)による面談は、秋学期のみ実施としていた法学部が両学期実施に拡充した。また、2021 年度に新設された 4 学部も安定的に毎学期面談を実施する流れとなり、全学部毎学期実施する体制となった。面談後の成績分析方法を年間ごとの分析から学期ごとの分析に変更した結果、学期によってばらつきはあるものの、面談には一定の効果が認められる結果となった。引き続き、分析を続け、データを蓄積していく。LA については 2021 年度に策定したガイドラインを周知し、授業補佐の業務範囲を明確にしたうえで実施した。ライティングセンターについて、対面指導はオンライン・対面形式を併用し、その結果、上ケ原キャンパス以外の学生からの利用数が増加した。科目運営は、オンデマンド授業と対面授業を組み合わせたハイブリッド型授業の運用を開始した。今後、この授業形態における学生側、教員側のフィードバックを実施し、次年度以降のクラス数等を検討する。
2023 年度	ライティングセンターについて、対面指導の実施セッション数、稼働率は目標値には届いていないものの毎年向上しており、満足度は目標値を上回る高い水準を維持している。科目運営面では、昨年度に続き学部科目において一部クラスをオンデマンドと対面形式を組み合わせたハイブリッド型授業として開講した。大学院科目の履修者数について減少傾向が継続しているため、授業内容・方法等の工夫改善に向けた検討を行う。 AA 制度について、安定した仕組みになっていることから教務課のルーティン業務として取り扱っていくこととし、実施計画としては終了する。 TA, LA, SA に共通して使用可能なオンデマンド型研修コンテンツを作成中であり、2024 年度秋学期から活用を開始できる見込みで進行している。
2024 年度	
2025 年度	
2027 年度	